

立教学院のオフィシャル・シンボル

立教学校設立から約半世紀を経た1918年、築地から池袋への移転を機に、当時のライフスナイダー総理が建学の精神を具体的に表現するものとして、今日の楯のマークと標語を定めたといわれています。楯のマークには十字架と聖書がデザインされています。紫は王の色、白は清純の象徴で、白色の十字架はキリストの純潔を意味します。神の言葉である聖書が生涯の教科書として中心に置かれ、PRO DEO ET PATRIA（神と世界のために）と記されています。今回、楯の周りに正式名称である“RIKKYO”を冠したそれぞれの校名をアルファベットで記載し、創立年度の1874をローマ数字の“MDCCCLXXIV”として統一しました。今後、各校はこれらの楯のマークをオフィシャル・シンボルとして使用します。ニックネームは「シールド・エンブレム」です。



シールド・エンブレム
学院



大学



中高／池袋



中高／新座



小学校

■ 学院のオフィシャル・シンボル

学院のみ「二重の輪」を採用。大学から小学校までの各校との視覚的な区別を図り、学院全体をイメージする重厚な表現となっています。



最小使用サイズ



9mm



二重の輪の内側を最小サイズとしてください

■ 大学のオフィシャル・シンボル

池袋中高、新座中高、小学校のシンボルも、大学の使用規定に則ります。



最小使用サイズ



9mm

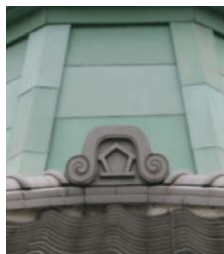
※ オフィシャル・シンボルの利用にあたっては、背景を透過処理しないなどの規定があります。
詳しくは6-00「オフィシャルシンボルの禁止例について」をご覧ください。

オフィシャル・シンボル (シールド・エンブレム)の構成要素

2-03

■ 「立」のマーク

1900年12月に発行された立教の機関誌『築地の園』には《紫地に赤く桜花を抜き其花上に、『立』字を出せる大旗は六角塔下の朝風になびき候》とあります。立教史上、最も歴史ある要素といえます。



■ 独自の英文書体

「ギルサンズ」をベースとした書体を使用しています。ギルサンズは、英国の活字職人で彫刻家でもあったエリック・ギルにより1920年代に完成されました。品格のある書体です。

■ スクールカラーとしての紫紺

「DIC 226」を使用しています。



■ 楯のモチーフ

ライフスナイダー総理が制定したといわれる、楯のモチーフが採用されています。

■ ラテン語の標語

「PRO DEO ET PATRIA」

建学の精神を表す標語「神と世界のために（立教学院では「普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、隣人のために」ととらえています）」が、ラテン語で表記されています。ラテン語にふさわしい古典的な書体＝トラジャンを使用しています。21世紀のデジタル時代でもなお凛々しく美しい、存在感のあるローマン体です。

■ 印刷再現

オフィシャル・シンボルでは、スクールカラーである紫紺「DIC226」を採用しています。特色で表現する場合は、紫紺を使用してください。



紫紺
DIC 226
C80%+M100% (近似値)

■ メタリック表現

金や銀、箔などメタリックで表現する場合は、紫紺以外の色を使用することができます。ただし、背景とのコントラストを十分確保するよう心がけてください。

白地に金



白地に銀



暗い背景に金刷り(左)、金箔押し(右)



暗い背景に銀刷り(左)、銀箔押し(右)

